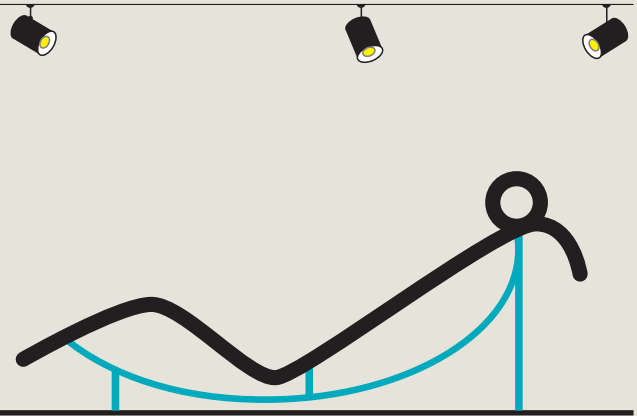


# Book Reviews [自著紹介]



本書は栄養管理を実践するための能力を養成することを目的として執筆しました。徳島大学病院では、医師、歯科医師、管理栄養士、看護師、薬剤師、臨床検査技師、等で構成されるニュートリション・サポート・チーム(NST)が組織され、経口摂取、経腸栄養法や静脈栄養法を駆使して医療の基盤となる栄養管理を積極的に行っています。栄養管理を実施するためには、栄養アセスメントを行い、栄養摂取状況や身体的栄養状態を把握して、病態にあった管理が必要です。

本書は栄養管理の統括、歯科医師は口腔ケア、管理栄養士は食事療養管理や栄養食事指導、看護師は栄養摂取状況や心理的变化の観察、薬剤師は経静脈栄養や服薬指導、臨床検査技師は検査意義、等に関する専門的技術が求められます。さらに、管理栄養士養成の教育カリキュラムが近年見直され、臨床栄養を含めた実践的栄養管理能力の養成が強く求められています。

従来、医師、管理栄養士およびコメディカルスタッフの卒前卒後教育を通して臨床栄養管理を学習するための教科書は不足していると感じておりました。そこで、栄養学や解剖学、生化学などの基礎的知識を基盤として、臨床病態および栄養管理法を理解するために本書を執筆しました。専門知識に加えて、患者や医療従事者間の豊かなコミュニケーションや豊かな人間性を養うために本書が活用されることも期待しています。

大学院  
ヘルスバイオサイエンス研究部  
臨床栄養学分野  
**武田 英二**  
『臨床病態栄養学』

出版社:文光堂  
定価:本体10,000円+税  
発刊日:2004年4月27日



工学部光応用工学科  
**福井 萬壽夫**  
『光ナノテクノロジーの基礎』

出版社:オーム社

ナノテクノロジーは21世紀の重要な工学技術です。光の技術はその速さ、周波数の高さから、超高度情報化社会のキーテクノロジーに成長すると考えられています。光は回折するので、今までは、波長の程度、すなわちミクロン以上の大きさに対する光技術が発展してきました。そこで、光のナノテクノロジーを発展させるためには、回折しない光を使う技術を確認する必要があります。

ピンホールのような開口や微粒子の周りには「近接場光」と呼ぶ光が存在します。近接場光は回折しない

ので、光ナノテクノロジーを実現するための切り札となる光です。近接場光は、一般的にその強度が弱く、利用するためには光強度を強めてやる必要があります。そのための主役となるのが表面プラズモンです。正電荷と負電荷の量が同じ状態をプラズマ状態と言い、その状態と光が表面で結合したものを表面プラズモンと言います。金属微粒子には局在した表面プラズモンが存在し、光強度を $10^{10}$ ~ $10^{14}$ 倍も増強できます。この性質を利用する技術をプラズモニクスと言います。産業界、学会で注目されています。しかし、プラズモニクスを系統的に基礎から応用までを記述した書物はなく、この本が初めてのものです。7章立ての本で、1章~6章までを福井が、7章を東工大(現在、東大)の天津教授が執筆しました。